



平成30年度が動き始めました。

キッズと合わせて42名！の新入園児さんをお迎えしました。

とても早く新しい環境になじんでくれました。

新しいクラスでの懇談を全クラス終えることが出来ました。ありがとうございました。

保護者の皆様と力を合わせて、充実した一年にしていきたいと思います。

ツバメの**四回目**の巣作りが始まりました。まもなく、ヒナの声が聞けそうです。

巣立ちの日を子ども達と共に楽しみたいと思います。



～ アドラーより ～

どんな場合に子どもは不適切な行動をするか

1. その行動が不適切であることを知らないとき

ある場合には、子どもは、自分の行動が不適切であるということを知りません。親やまわりの大人たちから、何が適切な行動であり何が不適切な行動であるかを学ぶ機会がなかった場合などです。

このような場合には、「それは不適切な行動ですよ」と教えてあげるだけで、子どもは不適切な行動をやめるかもしれません。

2. その行動が不適切であることは知っているが、どうすれば適切な行動ができるのか知らないとき

ある場合には、子どもは、自分の行動が不適切であるということを知っていますが、他のやり方を知らないので、しかたなく不適切な行動をしていることがあります。自分のしていることが不適切であることは知っていても、かわりの適切なやり方を学ばない限り、子どもは適切な行動はできません。

このような場合には、かわりの適切な行動を教えてあげると、子どもは不適切な行動をやめて、適切な行動をするようになるかもしれません。

3. その行動が不適切であることは知っており、適切な行動も知っているが、適切な行動をしても望む結果が得られないと信じているとき

ある場合には、子どもは勇気をくじかれて臆病になってしまったり、適切な行動の方法を知っていても、「自分にはそんなめんどろなことはできない」とか、「やってもきっと失敗してしまう」と信じてしまい、より安易な不適切な行動に走ってしまいます。

このような場合には、ただ「それは不適切な行動ですよ。この方が適切な行動です」と教えてあげても、子どもは適切な行動をしようとしません。どうすればいいかは、後に学びます。

4. 不適切な行動で注目や関心を得ているとき

ある場合には、子どもが不適切な行動でもって目的を達成している場合があります。その目的というのは、多くの場合、親の注目や関心を引き出すという心理的なものです。

このような場合には、親が子どもの不適切な行動に対して、叱るとか罰するとかして注目を与えていると、子どもはかえって不適切な行動をくり返すのです。これに対する対処も、後に学びます。